

老年看護学

【科目構成とねらい】

成長発達の最終段階である老年期は 65 歳～100 歳代と幅広い年齢層が対象であり、この時期は人としての英知を統合し、いずれは穏やかに幸せな死を迎えられるべき段階である。老年看護の対象となる高齢者は長い人生経験と知恵、個人の生き方・価値観を持っており、それを尊重し、個別な存在として理解されるべき存在である。

わが国では、非常に速い速度で高齢化が進展し、今後も高齢化率は上昇傾向が続くと推計されている。高齢者は他の年代に比べ有病率や受療率が高く、年齢と共に増加する。平均寿命が伸長する中、健康寿命との差が著しく短縮することはなく、日常生活に制限をきたした生活が、高齢者個人の QOL の低下を招き、家族にとっても介護による負担が増し、更には医療費や介護給付費等の社会保障費の増大に繋がっている。その一方で我が国の高齢者は就業や社会参加への意欲を持ち続ける人が多く、体力や運動能力でも新体力検査結果では 2000 年と比べ向上傾向である。こうしたことから、老年看護の対象となる高齢者やその家族を理解するには、身体面だけではなく、就業や所得、学習や社会参加、生活環境など幅広い視点で捉えることが大切となる。

近年、地域包括ケアシステムが推進され、要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される体制づくりが進められている。高齢者の生活の場は多岐にわたり、医療の場から施設・在宅などのスムーズな移行を図る必要がある。看護師は退院後の生活を視野に入れ、利用可能な保健・医療・福祉サービスや多職種の役割を理解し、それを尊重し連携する力を持つことが望まれる。1人1人の人生を念頭におきながら、多様な健康レベルと場の広がりに対応できる能力、その人のもてる力を発揮しQOLの維持・向上を目指した個別性のある看護を実践する能力が求められることになる。高齢者に起こりやすい変化を理解し、幅広い観察力やアセスメント力、科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断能力を養い、時代の変化や社会の動向に合わせて高齢者本人・家族のニーズを基盤としその人らしく生きるための支援ができるよう、基礎的な知識・技術を学べる内容とした

科目は、老年期にある人の「その人らしく生きる」を支えるためには、日々の生活、暮らしを理解することが必要であると考え、「高齢者の暮らしを支える看護」について学べる内容を精選した。以上より、高齢者がどのような状況(時・場所・価値観等)においても暮らし続けることを支援できるように、学習内容を「老年看護学概論」「高齢者の生活機能を整える看護」「高齢者の生きるを支える看護」「認知機能が低下した高齢者の暮らしを支える看護」の4つの科目に整理した。

「老年看護学概論」

高齢者を理解するために、加齢変化の特徴や加齢に伴う生活の変化を学び、高齢者の多様性を理解し、老年看護についての関心を高める内容とする。

「高齢者の生活機能を整える看護」

高齢者に特有の加齢変化によって起こりやすい心身の変化や生活への影響の理解を深める。高齢者の生活機能を整える看護の基本を学習する内容とする。

「高齢者の生きるを支える看護」

高齢者の健康問題は複雑化・長期化・重症化しやすい。治療に応じた看護、疾病予防・健康維持に関連する高齢者・家族の支援を含む療養生活の場における看護を学ぶ。また、老年期にあるすべての人が人生の終焉までその人らしく生きることを支援する看護を学ぶ内容とする。

「認知機能が低下した高齢者の暮らしを支える看護」

認知機能が低下した高齢者の取り巻く環境や退院支援、地域連携等の内容を学ぶ。そして急増する認知症高齢者が地域で暮らし続けるために予防からエンドオブライフケアまで、治療の場から療養生活の場まで、と幅広い視野をもって看護を考えられる内容とする。

【目的】

老年期にある人と家族及び支える人々を理解し、その人らしく生きるための看護を実践できる基礎的能力を養う

【目標】

1. 老年期にある人の特徴を理解し、老年看護の機能と役割を理解する。
2. 高齢者の特徴をふまえた生活機能を整える看護を理解する。
3. 健康問題が高齢者や家族に及ぼす影響を理解し、高齢者の健康を支える看護を理解する。
4. 高齢者が人生の終焉まで地域でその人らしく暮らし続けることを支える看護を理解する。

【構成および計画】

科目	単位	履修時期		
		1年次	2年次	3年次
老年看護学概論	1(30)	○		
高齢者の生活機能を整える看護	1(30)	○		
高齢者の生きるを支える看護	1(30)		○	
認知機能が低下した高齢者の暮らすを支える看護	1(15)		○	
計	4(105)	2(60)	2(45)	

授業計画

科目名	老年看護学概論		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次	
科目 目標	1. 老年期にある人のその人らしい健康と生活について理解する 2. 高齢者と家族のその人らしい健康・生活を支える保健・医療・福祉の現状及び課題を理解する 3. 高齢社会における老年看護の役割を理解する						
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員			
第 1 回	老年期にある人の理解	老いを生きるということ 我が国の高齢化の要因と特徴	講義	専任教員*			
第2回		老年期の発達課題 高齢者の多様性 (生活史を通じた理解)	講義 演習	専任教員*			
第3回		健康指標からみた高齢者の理解	講義	専任教員*			
第4回	加齢に伴う変化と生活への影響の理解	加齢と老化 加齢に伴う身体的・精神的・社会的機能 変化の特徴①	講義	専任教員*			
第5回		加齢に伴う身体的・精神的・社会的機能 の変化の特徴②	講義 演習	専任教員*			
第6回		加齢に伴う変化と生活への影響① 高齢者の日常生活の疑似体験	校内 実習	専任教員*			
第7回		加齢に伴う変化と生活への影響② 高齢者の生活・高齢者を取り巻く環境 体験後の学び発表に向けての準備	演習	専任教員*			
第8回		高齢者の生活・高齢者を取り巻く環境 体験後の学びの発表	演習	専任教員*			
第9回		高齢者の健康と健康の 保持増進のための支援	高齢者にとっての健康 高齢者の健康の目標と健康問題	講義	専任教員*		
第 10 回			健康の保持増進のための施策、取り組 み	講義 演習	専任教員*		
第 11 回		高齢者と家族の生活を 支えるための支援	高齢者の暮らし 高齢者と家族機能の変化 高齢者の生活を支える施策 多様な生活の場とリロケーション	講義	専任教員*		
第 12 回	高齢者が地域で「暮らす」とは 地域の高齢者・家族の暮らしを支えるた めの施策、取り組み		講義 演習	専任教員*			
第 13 回	老年看護の基本的な考 え方と倫理的課題	高齢社会の権利擁護と倫理的課題 権利擁護のための制度	講義	専任教員*			
第 14 回		老年看護に関わる理論・概念 老年看護の特徴	講義 演習	専任教員*			
第 15 回	評価		評価 方法	筆記・レポート 100 点			
備考							

授業計画

科目名	高齢者の生活機能を整える看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 加齢変化によって起こりやすい心身の変化を踏まえた生活への影響を理解する。 2. 高齢者の生活機能を整える看護の基本を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 * 実務経験のある教員		
第 1 回	高齢者の生活機能のアセスメント	高齢者の身体的健康のアセスメント 生活の自立状態のアセスメント 心理・社会的健康のアセスメント	講義	専任教員*		
第2回	高齢者の生活機能を整える看護 コミュニケーション	高齢者のコミュニケーションの特徴 高齢者のコミュニケーションに影響する要因 高齢者とのコミュニケーション方法	講義	専任教員*		
第3回	高齢者の生活機能を整える看護	高齢者の生活リズムを調整する意義 高齢者に特徴的な生活リズムのアセスメント 生活リズムを整える看護	講義	専任教員*		
第4回		歩行・移動動作のアセスメントと援助 高齢者の転倒・転落の影響、要因とその予防 活動意欲を高める看護	講義	専任教員*		
第 5 回		高齢者に特徴的な食生活のアセスメント 高齢者の食生活への看護	講義	専任教員*		
第 6 回		嚥下機能が低下している高齢者の看護 脱水症状のある高齢者の看護 経管栄養法・口腔ケア・義歯の管理	講義 校内 実習	専任教員*		
第 7 回		高齢者の排泄の特徴と QOL 排泄能力の変化に応じた看護	講義	専任教員*		
第 8 回		高齢者の皮膚の特徴と清潔に関する健康課題 高齢者の清潔行為、更衣動作のアセスメント 高齢者の清潔に向けた看護	講義	専任教員*		
第 9 回	臥床傾向にある高齢者の日常生活機能を整える看護	Case learning 臥床傾向にある高齢者に起こりやすい変化と生活への影響 看護介入計画の立案	演習	専任教員*		
第 10 回		臥床傾向にある高齢者の日常生活を整える援助① 陰臀部の保清・おむつ交換	演習	専任教員*		
第 11 回		臥床傾向にある高齢者の日常生活を整える援助② 陰臀部の保清・おむつ交換	演習	専任教員*		
第 12 回		Case learning 臥床傾向にあった高齢者の日常生活動作や生きる意欲を向上させる看護介入計画の立案	演習	専任教員*		
第 13 回		臥床傾向にあった高齢者の日常生活動作や生きる意欲を向上させる援助① 食事の援助	演習	専任教員*		
第 14 回		臥床傾向にあった高齢者の日常生活動作や生きる意欲を向上させる援助②	演習	専任教員*		
第 15 回		評価		評価 方法	筆記・レポート 100 点	
備考						

授業計画

科目名	高齢者の生きるを支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 高齢者の健康障害の特徴と看護を理解する 2. 生活の場の特徴をふまえ高齢者とその家族への看護を理解する					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第 1 回	高齢者の健康障害の 特徴と看護	老化の要因と原因 老年症候群と老年病 健康障害を抱える高齢者への看護の視点	講義	専任教員*		
第2回		高齢者に特徴的な症状と看護 感染・掻痒感(かゆみ)・倦怠感・脱水・サルコ ペニアとフレイル	講義	専任教員*		
第3回		褥瘡・スキンケアの原因・リスクアセスメント 褥瘡・スキンケアの評価・治療と看護	講義	皮膚・清潔ケア 認定看護師*		
第4回		褥瘡・スキンケアの評価 予防援助と処置	校内 実習	皮膚・清潔ケア 認定看護師* 専任教員*		
第5回	様々な受療状況に応 じた高齢者の看護	入院時、退院時の看護 外来受診時の看護 検査時の看護	講義	専任教員*		
第6回	治療を必要とする高 齢者の看護	加齢に伴う薬物動態と薬力学の変化 高齢者の薬物療法時の特徴 薬物療法を受ける高齢者への援助とリスクマ ネジメント	講義	専任教員*		
第7回		手術を受ける高齢者の看護	講義	専任教員*		
第8回		高齢者リハビリテーションの意義と特徴 インフォームド・コオペレーションに基づく個別 リハビリテーション 健康レベルに応じたリハビリテーション	講義	専任教員*		
第9回	高齢者のエンド・オブ・ ライフ・ケア	終末期における高齢者の特徴 高齢者の死にかかわる権利擁護 進行性疾患患者の意思決定支援 臨死期のアセスメントと看護	講義	専任教員*		
第 10 回	高齢者の生活の場 の特徴と看護	施設で暮らす高齢者の看護 災害時における高齢者の援助	講義	専任教員*		
第 11 回	健康障害が及ぼす高 齢者・家族への影響 と看護	Case learning① 骨粗鬆症・大腿骨頸部骨折 患者の日常生活行動の自立、生活機能の 維持・拡大に向けた援助	講義 演習	専任教員*		
第 12 回		Case learning② 骨粗鬆症・大腿骨頸部骨折 患者の日常生活行動の自立、生活機能の 維持・拡大に向けた援助	講義 演習	専任教員*		
第 13 回		Case learning③ パーキンソン病の高齢者と その家族の生活を支える援助 意思決定支援	講義 演習	専任教員*		
第 14 回		Case learning④ パーキンソン病の高齢者と その家族の生活を支える援助 意思決定支援	講義 演習	専任教員*		
第 15 回	評価		評価 方法	筆記・レポート 100 点		
備考						

授業計画

科目名	認知機能が低下した高齢者の暮らしを支える看護	単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	2年次
科目 目標	1. 認知機能が低下した高齢者がその人らしく暮らし続けるための支援について理解する				
回	単 元	内 容	形式	担当教員 * 実務経験のある教員	
第1回	認知機能が低下した 高齢者の理解	加齢によるうつ・認知症の病態と要因 BPSD と生活への影響 軽度認知障害 (MCI)	講義	認知症 認定看護師*	
第2回	認知機能が低下した 高齢者とその家族へ の看護①	認知症看護の原則 認知症高齢者とのコミュニケーション ユマニチュアード・パーソンセンタードケア	講義	専任教員*	
第3回		認知症の高齢者の看護のポイント 認知症の高齢者の観察とアセスメントの視点 認知症の高齢者を介護する人の想いと支援	講義	専任教員*	
第4回		認知機能が低下した高齢者の生活を整えるための看護 ・食事のニーズを保つ ・排泄のニーズを保つ ・清潔のニーズを保つ ・睡眠のニーズを保つ ・認知症の人にとっての環境の意味 生活・療養環境調整	講義	専任教員*	
第5回	認知機能が低下した 高齢者を取り巻く環境	認知症と社会制度 認知症を取り巻く制度とその変遷 社会参加生活の場の移動と看護の継続 認知症看護における倫理的課題 権利擁護 意思決定支援 アドバンス・ケア・プランニング	講義 演習	専任教員*	
第6回	認知機能が低下した 高齢者とその家族へ の看護② 退院調整・退院支援	Case learning① 認知症のある高齢者が退院する際の退院 調整・退院支援 ～安全・安楽に自宅で暮らしていくための 方法を考える～	演習	専任教員*	
第7回		Case learning② 認知症のある高齢者が退院する際の退院 調整・退院支援 ～安全・安楽に自宅で暮らしていくための 方法を考える～	演習	専任教員*	
第8回	評価		評価 方法	筆記・レポート 100 点	
備考					